



梅毒の検査と診断について

～梅毒の発生状況について～

近年、梅毒の感染者数が増加しています。そのため、専門外の診療科でも思いがけず梅毒患者に遭遇する可能性が高まっています。

香川県感染症・疾病管理センターによると、県内の梅毒患者数は2023年に**137名**、2022年は**98名**が報告されています（※5類感染症で最多）。

～梅毒の検査について～

感染症の検査といえばPCR法のイメージが強いと思いますが、梅毒に関しては保険適応でなく、血清中の梅毒抗体検出が主な検査法として用いられています。

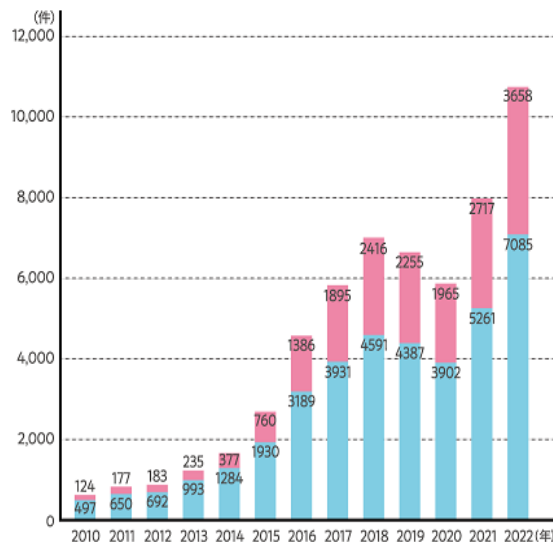
梅毒抗体検査には感染によって破壊された組織に存在する脂質に対する自己抗体を検出するRPR法と、梅毒に対する特異的なTP抗体の2種類の検査法があり、**梅毒の診断はこの2種類の検査法を組み合わせる行うことが望ましいとされています。**

表1. 当院の梅毒検査項目

検査項目		検査方法	基準範囲	容器	所要時間	保険点数
RPR法	定性	ラテックス免疫比濁法	(-)	免疫青2 2mL 	2時間	15点
	定量		1.0 R.U.未満		2時間	34点
TP抗体	定性	化学・生物イムノアッセイ	(-) 1.00 S/CO未満		2時間	32点
	定量	粒子凝集反応	(-) 80倍未満		4時間	53点

■梅毒報告数の推移※

■男性 ■女性



厚生労働省HPより引用

表 2. 各検査の特徴

検査法	RPR法	TP抗体
特徴	・ 感染後早期に陽性化する ・ 治療効果を反映する ・ 生物学的偽陽性があり、特異性が低い	・ 特異性が高い ・ 治療効果を反映しない

- ・ RPR法は感染状態を反映しますが、他の疾患でも陽性となる「生物学的偽陽性」を生じる可能性があります。
 - ・ TP抗体は梅毒に特異的ですが、治療効果を反映できません。
- そのため、**2つの検査を組み合わせる検査**する必要があります。

表 3. 検査結果の解釈

RPR法	TP抗体	結果解釈
陰性	陰性	・ 非梅毒 ・ まれに梅毒感染初期
陽性	陰性	・ 生物学的偽陽性 ・ まれに梅毒感染初期
陽性	陽性	・ 梅毒 ・ 梅毒治療後の抗体保有者
陰性	陽性	・ 梅毒治療後の抗体保有者 ・ ごくまれに TP抗原系の偽陽性 ・ 早期梅毒の報告増加あり

- ・ 近年ではRPR法よりも先にTP抗体が陽性となる、またはRPR法が陰性の報告も増えてきています。梅毒を見逃さないためには、**同時測定が推奨されています。**（梅毒診療ガイド「日本性感染症学会」より）
- ・ 梅毒は、「偽装の達人」という異名を持ち、他疾患と間違えられることもあり、初診・侵襲的検査時・入院時など、RPR法とTP抗体を測定してみないと診断がつかない場合があります。性感染症を疑う際などは梅毒検査もご検討ください。（免疫担当：内線3676）

～生理機能検査室より～

血圧脈波速度検査(CAVI)についてお願いします。

入院患者様がCAVIを受けられる場合に、お手数ですが**弾性ストッキング**をあらかじめ脱衣させてから出棟していただくようお願いいたします。